

みんなで考えよう!!

「障害のある人の外出を楽しくする ちょっとした心くばり」

あなたの声
が頼りです。

北区役所と北区社会福祉協議会では、区内の高校生・大学生を対象に、「障害のある人の外出を楽しくする ちょっとした心くばり」をテーマとする啓発作品を募集しました。

応募者は、障害のある人から、外出時に怖い思いをした経験談やどのような手助けがあると助かるかの話を直接聴き、印象に残ったシーンやぜひ伝えたいと感じたことをマンガやイラストで表現しました。この冊子では、応募していただいた9名15作品の中から9作品を紹介します。

「障害のある人の思いを伝えたい」…高校生・大学生の心のこもった作品から、誰もができる「ちょっとした心くばり」について考えていただけませんか。

「目の見えない私」 山城高等学校 藤木翔太さん

「白杖を持った困った人がいたらなるべく声をかけてほしい」という願いを込めて描きました。



「青だよ」 山城高等学校 宮本 歩さん

音の出ない横断歩道で、信号が青になっていることがわからない障害のある人を「私でも僕でも手伝うことができるんだ」という思いを込めて、デザインしました。



視覚に障害のある人を安全に誘導するには、まず、声かけをして、右腕のひじのあたりを持ってもらい、同じ方向を向いて、半歩前を歩くようにしましょう。

「大切なのは 行動すること」

山城高等学校 福井孝騎さん

手話ができないから、どうせ自分には何もできないから、そういうことを考えて動かないのではなく、自分にできる限りのことでもしっかりとやれば相手に必ず気持ちは伝わるとのこと。

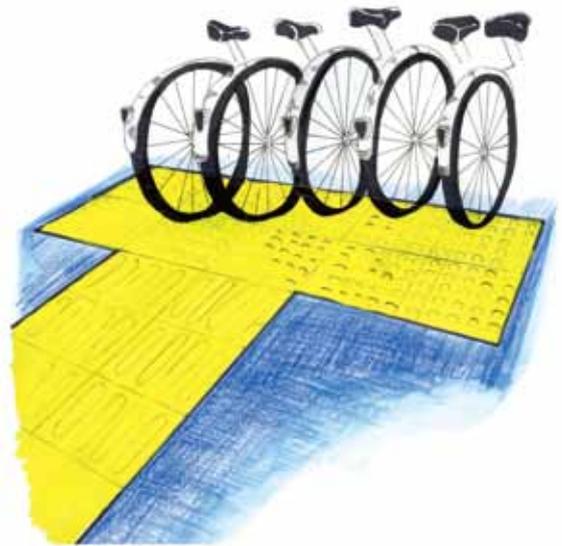
大切なのは、「できるか・できないか」ではなく、「するか・しないか」だけだということを知ってほしくて、この漫画を描きました。



見えますか。

「見えますか」 山城高等学校 梶本純子さん

点字ブロックの上に自転車を置いてしまう人は、点字ブロックの存在や意味を分かって置いているのかな、という意味で、「見えますか」としました。ひと目で「点字ブロックがある」という、存在感のあるデザインにしたつもりです。



ほんの少しの気配りと

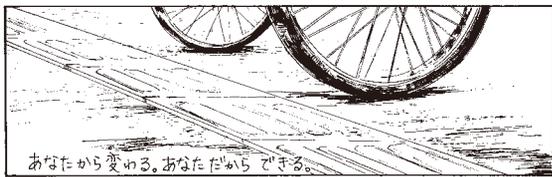
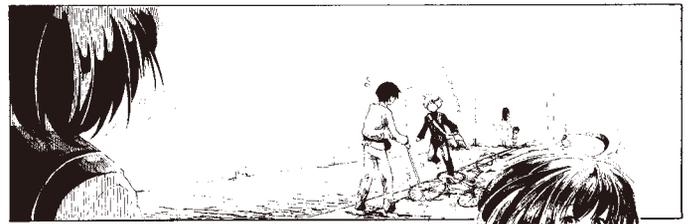
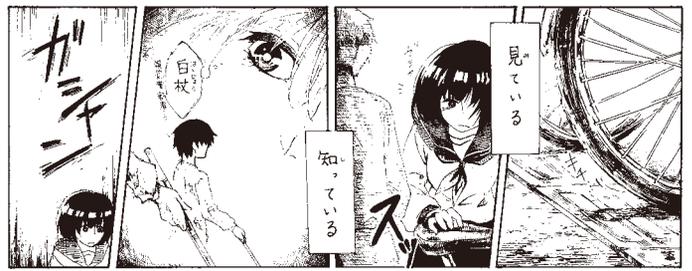


「ほんの少しの気配りと」 銅駝美術工芸高等学校 塩尻陽子さん

2つのパターンをあげて、右によくない例、左によい例としました。

キャラクターや舞台、コマ割りとも同じにして、少しのことでいかに変わるかを強調しようと思いました。サイレント漫画と、中心人物が少しずつ移り変わっていく描き方で、映画のような画面構成を意識しました。障害のある人に対して、悪気はなくても迷惑になっていることがたくさんあると思います。

ほんの少しの気配りと、自分にできることを考えて、勇気をもって行動することが大切ということがこの漫画で伝わればいいと思います。



「行動しないと」 銅駝美術工芸高等学校 小林志穂さん

サブタイトルは「点字ブロックをもっと意識して」ですが、どんなことにも共通して言いたかったのが、「行動しないと」でした。私たちは、障害のある人に対して「とても認識が甘い」か、もしくは「少し気になる」「どうしてあげればよいか考えてみる」というだけで、結局行動に移すという段階に至っていないと思います。「目を向けること」そして「知ること」はとても大切なことですが、その次のステップ、「行動する」に進むことが最も大切です。「こういったことで悩んでいる」と伝えて、「へえ そうなんだ」だけで終わってほしくないのです。

小学生にも読んでもらうということで、示唆するような内容ではなく、あえてダイレクトに一番伝えたい言葉だけを選びました。「ほんの少し、小さなことでもいいから行動する。そこから、あなたから変えていく。それはあなたにしかできないことなんだ」ということを、チラシを目にした方々に少しでも意識していただきたいと思い制作しました。

高校生・大学生と障害のある人との「交流会」を開催しました

このパンフレットを制作するにあたり、視覚や聴覚に障害のある人とマンガを描く高校生・大学生との交流会を開き、障害のある人から外出する際に起こったことや感じたことなど様々な話を聴きました。視覚障害の人からは、バスの誤ったアナウンスで馴染みのないバス停で降り川に転落した話や、自転車と交錯して白杖が折れた話、少しの手助けや声かけでずいぶん安心感が高まることを聴きました。また、聴覚障害の人からは、電車の信号待ちの際のアナウンスが聞こえず、停車理由が分からないために不安を感じる話や、近づいてくる緊急車両が分からない話、手話を用いなくてもメモを書いて見せてもらうだけで助かることなどを聴きました。参加者からも、障害のある人の日常生活についてたくさん質問があり、活発に意見交換を行いました。

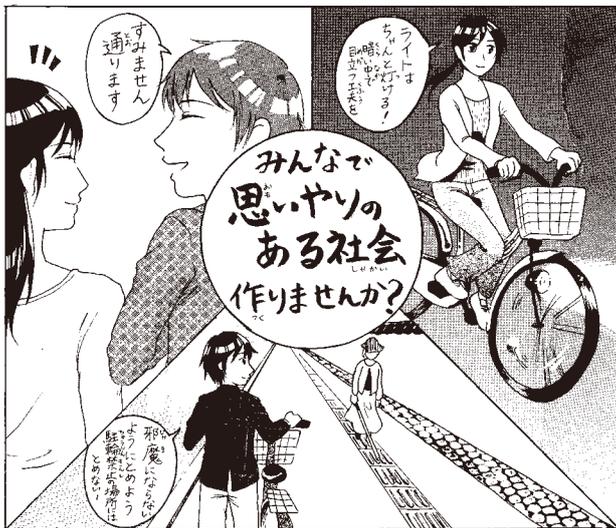
(平成22年12月18日)

場所：北区社会福祉協議会事務局

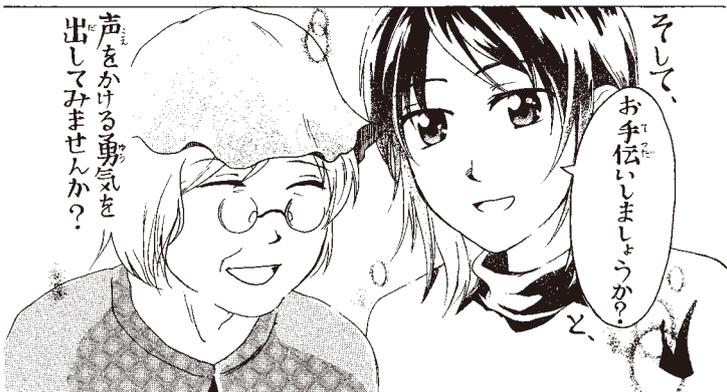
協力：京都府視覚障害者協会北支部、京都市聴覚障害者協会北支部、京都市中途失聴・難聴者協会北支部



みんなで暮らす社会



身体障害者の方には...



「みんなで暮らす社会」 銅駝美術工芸高等学校 進士育子さん

実際の身体障害者の方々の体験をわかりやすく伝えたいと思いました。自転車に乗っている人達がしがちな「普通だ」と思っている行動は、障害者の方々にはとても危険なことなんだ、ということ意識してほしいです。

私も頻繁に自転車に乗るので、自分の感覚を改めなければ、と思いつながります。自転車の危険走行が多い今、そういったことを無意識にやっちゃっている人にぜひ読んでほしいと思います。

思いやりと行動の輪を広げよう! 「誰もが安心して外出できるやさしいまち」に

自転車で歩道上を猛スピードで走っていませんか? 歩道上に雑然と自転車をとめていませんか?

障害のある人にとってこれらは大変危険で、事故や怪我の原因となるだけでなく、外出を控えてしまうことにもつながります。交通マナーは一人ひとりのほんの少しの心がけや思いやりで向上します。

この冊子を手にとった皆様の「行動」をお願いいたします。

最後になりましたが、この企画にご協力いただいた高校生・大学生の皆様、障害者団体の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月

京都市北区役所 / 社会福祉法人 京都市北区社会福祉協議会

